

がんばっぺ東北 がんばっぺ日本

だがしや楽校ひとりごとダイアリー

東日本大震災支援チャリティー

だがしや楽校 & ライブ & バザー

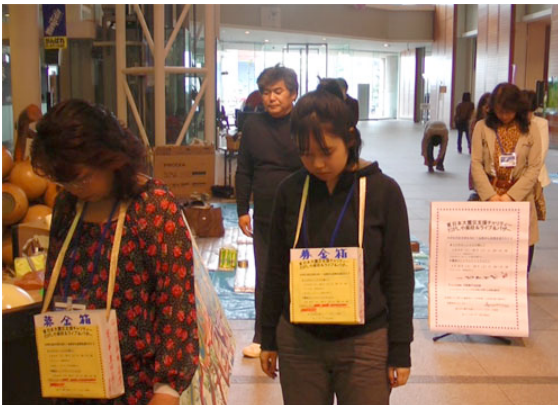
小さな力を大きな力に！ 山形から元気を送ろう♪♪

山形県山形市発

2011年4月16日（土曜日）晴れ 昼前から午後にかけて曇り 所により一時雨

【東日本大震災支援チャリティー“だがしや楽校&ライブ&バザー”2日目】

あらためまして、このたびの東日本大震災にて亡くなられた方々のご冥福をお祈りし、黙禱を捧げます。黙禱！



東日本大震災支援チャリティー“だがしや楽校&ライブ&バザー”2日目は、山形駅西口側・霞城セントラル1F・アトリウムにて開かれました。

1週間前の1日目（4月9日）は、雨天のため募金活動のみとなりましたので、きょうが事実上の第1回目です。そこで、開会にあたり、全員で黙禱を捧げました。

それでは、このあと2日目の模様をお伝えしますが、その前に少しだけ申し上げたいことがあります。

私（山口）は、“だがしや楽校”の普及あるいはつながりを深めること（ネットワークの構築）を目的に、山形県内及び全国で開かれている、あるいは開設されている“だがしや楽校”を取材してはレポートしております。

レポートを制作する過程では、撮影した写真やビデオを観ながら、振り返りを行い、記事にまとめていきます。今回も、いつものように撮影したビデオ映像を観ながら、制作して行きました。

しかし、「いつものように」ビデオを観ていたら、次第に胸が詰まっていきました。やがて涙腺

までゆるみ始めます。私は、丹波恵子さんへ次のように申しあげました

私は“だがしや楽校”をはじめ、取材報告記事はたくさん書いていますが、過去に経験したこともない大きな哀しみと涙と、小さいかもしれないけど希望と喜びを感じながら、撮影したビデオを観ております。

当日は、丹波さんをはじめ多くの仲間に支えられたのでしょうか、それからビデオ撮影のために気丈にしていたからだと思いますが、いつものように取材することが出来ました。ところが、撮影したビデオを観てみると、もう言葉がありません。ウルウル状態になっております。

あらためて、開催して下さった丹波さん・ゆき彦さんたちに感謝です。

それでは、2日目の模様をご紹介します。

《バザー》

丹波恵子さんとその仲間たちによるバザーです。



丹波さんによりますと、品物より高い値段で買ってくださる人が多く、「感激しました」とのこと。もちろん、売上金は義援金とさせていただきます。

《だがしや楽校》

▼ぱたぱたこいのぼり



レジ袋で作るこいのぼりです。レジ袋にこいのぼりの絵を描いて、出来上がったら、走ってこいのぼりを膨らませます。



子どもたちのこの元気、被災地・避難所の子どもたちに届きますように・・・。
東北芸術工科大学・学生さんたちの屋台です。

▼ジャラカス

こちらも、東北芸術工科大学・学生さんたちの屋台です。



ガチャポンのケースにいろんなモノを入れて、マラカスを作ります。「ジャラジャラ」と音を立てるからジャラカス。



この笑顔が被災地・避難所の子どもたちに届きますように・・・。

▼似顔絵

子どもにも、大人にも大人気となった似顔絵の屋台です。



似顔絵を描いているのは東北芸術工科大学をこの春卒業したHさんです。

▼スライム



子どもたちに人気のスライムの屋台です。フィルムケースを使って作りました。



楽描きのメンバーと東北芸術工科大学・学生さんたちによる屋台です。

▼らくがき



ポストカードや画用紙に自由に描きます。

被災地・避難所の子どもたちは自分の思いを自由に発散できないのではないかと心配されていますが、絵を描くことも子どもたちにとって自分を表現する方法とされています。



《ライブ》

丹波さんやゆき彦さんの呼び掛けで、なんと7組のアーティストが集結！ ちょっとした音楽フェスティバルとなりました。音楽の力、音楽仲間の団結力・底力を身に染みて感じました。



♪時雨

“時雨”の左側の方が丹波恵子さんの息子さんです。あの日は通っている大学がある仙台にて地震に遭遇。壁が崩落する中、階段を駆け下りながら逃げたそうです。

“レイジー ドッグ”のベースの人は、山形市内にあるライブハウスのマスターです。“レイジー ドッグ”が歌う曲は、ほとんどがオリジナルです。



♪レイジー ドッグ



♪つどう街

丹波さんの“だがしや楽校”の歌“つどう街”を、振り付け指導：ゆき彦さん、ダンサー：東海林さん・近藤さん（楽描きだがしや楽校）、石沢さん（東北芸術工科大学・大学院生）で歌い、踊りました。



♪ It a - n e e

この日のライブのメインスタッフのひとり“It a - n e e”さんは、被災地の子どもたちへ向けて「君たちの未来」と、被災地も山形もひとつの空でつながっているという「この大きな空はつながっている」の2曲を書き上げ、披露しました。「この大きな空はつながっている」では丹波さん・ゆき彦さんも加わり、みんなで歌いました。



♪ともかず会

雰囲気変わって“最上川舟歌”など民謡が会場に流れます。後半はさとうゆうこさんとゆき彦さんの洋楽器が加わっての演奏です。「花」「太陽がいっぱい」そして最後は、陸前高田市出身の千昌夫さんのヒット曲「北国の春」を演奏しました。



♪ジャンクス

会場からの反響が大きかったジャンクス。ジョン・レノンの“マザー”で始まり、ロビー・ロバートソンの“ザ・ウェイト”（ザ・バンドの代表曲）で締めるという洋楽ファンをうならせる選曲でした。



♪チェリーズ

“ゲ・ゲ・ゲ”シリーズで始まり、昨年大雨被害に見舞われた奄美大島の島唄では踊りを披露し、ベンチャーズのギター演奏まで再現するという多彩なパフォーマンスを披露されました。



♪大田しょうこ

山形市内で年 20 回ほどライブを行うという大田さん。

“イマジン”では、東海林さん（楽描き）の胸を詰ませます。

“タイム・アスター・タイム”のシンディー・ローパーは親日家。2011 年 3 月 11 日に来日。本国アメリカに帰ることなく、日本でのコンサートを“チャリティー・コンサート”として行います。このエピソードは、私から大田さんにもご紹介しました。

締めは“Bridge over Troubled Water”。私（山口）個人的なことですが、これまでカラオケでは封印してきた曲だったのですが、大田さんの歌をお聴きし、大震災・原発・そして“Troubled Water”（津波）もあり、封印を解こうか迷っております。

大田さんのライブを言葉で表現しようとしたのですが、言葉が思い付きません。思い付く前に、私も胸が詰まってしまう。

7 組のアーティストが集結しただけでなく、その演奏もそれぞれが凄かったです。これほどまでのパフォーマンスを、いくらチャリティーとは言え、一気に堪能して良いのでしょうか。

この感動、そして音楽の力が、被災地・被災者・避難者の人たちに届くことを願うばかりです。

会場ではチャリティーということで、募金活動を行いました。スタッフが自ら募金する風景が見られました。



似顔絵の学生さん



東海林さんと丹波さん

ここで、メインスタッフ・お二人の活躍ぶりとひょうきんぶりをご紹介します。

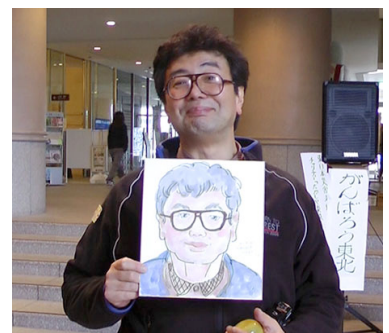
◇片桐さん



屋台のおじさんぶりを発揮！



大丈夫かな？？



自分の似顔絵に満足！

◇東海林さん



募金活動に精を出していたのに・・・これだから、困っちゃう！



ところで、この募金箱は、みんな手作りです。3月19日の“楽描きだ が し や 楽 校”で描いた「がんばろう日本」です。

なお、募金とバザーの売上金はすべて義援金として“山新放送愛の事業団”に寄託します。

最後に主役のお二人をご紹介します。

◆ゆき彦さん



“ベゴニゲダ”の歌詞は「山川さんちのベゴニゲダ」なのに、ゆき彦さん「山口さんちのベゴニゲダ」と歌うもんだから、私はカメラを持ったまま、大ズッコケ！

私が「短時間に7組のアーティストがよく集まりましたね」とゆき彦さんに尋ねますと、「音楽の力です」とアッサリ答えていました。恐れ入りました。

週1回とは言え、4週間ぶっ続けのチャリティーはハードです。しかし、3月11日以降の日本では、少々ハードなことでも、クリアできるパワーを、みんなが発揮しています。そして、困難に立ち向かっています。

音響機材のセッティング・調整から、出演アーティストのサポート・協演、そして会の進行まで、一人で何役もこなしたのが、ゆき彦さんでした。

◆丹波恵子さん



似顔絵を描いてもらう丹波さん。その似顔絵に満足する丹波さん。

丹波さんも、バザーやライブのサポートなど、一人で何役もこなしていました。

丹波さんの本チャリティー・イベントへの思いは並大抵ではありません。物凄い意志の強さを感じました。そして、輝いていました。

きっと、被災地・被災者・避難者の人たちのために「自分は輝こう」「この輝きをつらい思いをしている人たち・子どもたちに伝えよう」という思いがあるからでしょう。



丹波さんが最後に歌った“ビリーブ（信じる）～この子らに～”は、親と子の絆を歌った曲です。

今こそ「人と人の絆」です。しかし、「絆」という言葉が安易に使われている気がしております。「人と人の絆」とは、とてもデリケートです。互いに理解し合い、信じ合っの「人と人の絆」です。丹波さんの歌から、あらためて感じました。



写真提供：似顔絵屋台のHさん

丹波さんは、振り返って、次のように語っています。

音楽では多くの皆さんが次々に駆けつけてくださり、次々に演奏してくださいました。
このつながりには本当に感動しました。
だがしや屋台では本当に様々なブースから笑顔があふれ出ていました。
音楽広場も若い皆さんに好評でしたね・・・
バザーでも次々募金に来てくださり多分・・・多くの義援金を送ることが出来そうです。
片桐さんは「何かいい雰囲気だね・・・」と言ってくださり、東海林さんは「このつながりって
凄いものがありますね」と感動なさっていました。
それぞれがそれぞれにつながった活動に、私も「やってよかった！」という思いです。

私（山口）も同じように感じました。そして、私も「やってよかった！」です。
私こそ、皆さんに感謝です。

この報告の最後は、東日本大震災支援チャリティー“だがしや楽校&ライブ&バザー”2日目を振り返り、ライブで歌われた曲の歌詞を基に、私の思いもプラスした言葉をご紹介します。

母なる大地・地球

今、地球が叫んでいる 怒っている
母（マザー）よ、教えてほしい
地球はどうなるの

ボクを生んだ母よ、教えてほしい

天国ってあるの？
一人ひとり、みんな同じじゃないの？
みんな、つながっているんじゃないの？

そうさ、ひとりじゃないんだよ。

ボクらは、支え合って生きているんだよ
どこかでつながっているんだよ
あの青い空のように

ボクは信じる

未来があることを
だから、今をしっかり生きよう
つらいかもしれないけど

泣きたい時があるかもしれないけど

だけど確かな絆があるからクリアしていけるだろう
だって、ひとりじゃないんだから
子どもたちの未来のためにも
今をしっかり生きよう

だから、みんなもしっかり生きよう
つらいことがあったら、みんなで支えてあげるから
荒れ狂う水の上に架かる橋のように
荒れ狂う水の上に架かる橋のように

東日本大震災支援チャリティー “だがしや楽校&ライブ&バザー”
4月23日の3日目へ続く・・・

企画・制作・編集・文責
山口充夫
だがしや楽校コーディネーター

◎4月9日の1日目はこちら↓

http://web.me.com/okitama_radio/nikki2011/110409nikki.html

◎4月23日の3日目はこちら↓

http://web.me.com/okitama_radio/nikki2011/110423nikki.pdf

◎4月30日の4日目はこちら↓

http://web.me.com/okitama_radio/nikki2011/110430nikki.pdf